



賞状を受け取る一沢明男会長（右）

清掃活動が評価

港の環境美化
継続に意欲

「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」の国土交通省東北地方整備局長賞に久慈港環境美化協会（一沢明男会長）が選出。7月26日、市宮魚市場で行われた伝達式に会員など約100名が参加しました。

30年以上にわたり久慈港周辺で行ってきた清掃活動が評価されたもので、釜石港湾事務所久慈出張所の鳥畑孝志所長から表彰状を受け取った一沢会長は「今後も環境美化活動に努めたい」と意欲を見せました。



石碑に手を合わせる道場生

道場生が石碑参り

柔道への気持ち
高まる参拝

8月8日、三船十段記念館（宇部辰喜館長）の小学生道場生32人が同記念館から約1.5キロを歩き、巽山公園内にある「三船十段留魂之碑」を参拝。その後、公園内の清掃活動を行いました。

道場生の大宮秀太くん（小久慈小・6年）は「碑を訪れるたびに柔道に対する気持ちが高まります」と引き締まった表情で話しました。

元柔道世界王者が久慈中と三船十段記念館で柔道教室

「考える柔道」を伝授



柏崎克彦さんに指導を受ける子どもたち

久慈市出身の元柔道世界王者、柏崎克彦さん（国際武道大教授）が8月12日、久慈中学校と三船十段記念館で、子どもたちに柔道を指導。肘の故障から寝技を極めることにした自らの経験や、大柄の相手を倒した三船久蔵十段の話を交え、「考える柔道」の大切さと楽しさを伝えました。久慈中学校では、襟のつか

み方や、寝技・立ち技で相手を崩す方法、小柄な選手が技を決める方法などを実技で披露。三船十段記念館では、技の基本を指導する柏崎さんの動きを、子どもたちは真剣なまなざしで追っていました。柏崎さんは「技を覚えたら、どうすれば相手の体勢を崩してかけることができるかを考えること」と子どもたちに伝授。また、「基本の動きから技をかけるまでの流れをつくる・考えることも柔道の楽しみの一つ」と訴えました。指導を受けた田高慧介くん（久慈中3年）は「自分たちに『考える』ことが足りないことが分かりました。柏崎先生の指導を生かし、高校では県1位を目指します！」と力強く決意を話してくれました。

久慈高・久慈東高の美術部が顔出しパネルを制作

パネルで観光をPR



お披露目された5枚の顔出しパネル

8月5日、久慈高校と久慈東高校の美術部が制作した記念撮影用の顔出しパネル計5枚がお披露目。北限の海女や三陸鉄道などが魅力的に描かれ、短角牛やウニ、まめぶ汁などに顔を出す穴が開けられた楽しいデザインです。久慈駅前広場で行われた贈呈式では、制作を依頼した久慈商店会連合会の田高琢也会

長が「心を込めて作っていただき感謝。観光客の皆さんに楽しんでもらえらると思えます」とあいさつ。制作に携わった西田ゆうきさん（久慈高2年）は「見た人が笑顔になってくれればうれしいです。部員の絆も深まりました」と満足げでした。7月から約2週間かけて完成したパネルの大きさは縦横1・8メートル四方で、市内の駅前・銀座・十段通り・本町・十八日町の各商店街に設置。連続テレビ小説「あまちゃん」で盛り上がりつつある久慈市の観光PRと、訪れていたいただいた観光客の思い出作りに役立てられています。

オペラ「ドン・パスクアレ」に市民コーラス隊が参加

地元の小ネタとオペラ堪能



市民コーラス隊の見せ場。みんなで「じえ！」

プロの音楽家とオーケストラ、久慈地域の市民コーラス隊29人が繰り広げる本格オペラ「ドン・パスクアレ」が8月11日、アンバーホールで開演。豪華なメンバーによるステージと音楽を約450人の観衆が堪能しました。演出家の加藤裕美子さんが、約200年前に作曲された傑作オペラに新しいアレンジを追加。久慈市の特産品や「じえじえ！」のセリフを劇中に盛り込むなど、楽しい演出が満載でした。また、ステージ上には字幕が表示され、イタリア語が分からなくても十分に楽しめる内容。小ネタが披露されるたび、会場からは大きな拍手が送られました。

オーケストラピットを使用した演奏は、NHK交響楽団の主力メンバーらで構成。久慈公演のために結成された特別なオーケストラがオペラをさらに盛り上げていました。オペラに登場した市民コーラス隊は今年1月に結成。50回以上の練習を積み重ね、劇中の召使いとしてステージ上を駆け巡りました。参加した佐々木貴さん（門前）は「みんなでワーツと登場してドーンと歌えたことに喜びを感じています。胸がいっぱいです」と感無量。初めてオペラを鑑賞した坪谷美智子さん（八戸市）は「楽しかった！久慈市を使った演出もいすすね」と満足していました。



歌声と演技力で観衆を引き込むプロの音楽家

福島の小・中学生が久慈でリフレッシュ

体験通じ、成長する子どもたち



琥珀の採掘に挑戦する子どもたち

「夏のリフレッシュ体験事業」で福島市の小・中学生が久慈市を訪問。原発事故の影響で野外活動が制限される子どもたちに、心身のリフレッシュをしてもらおうと福島市と同市教育委員会が3年前から始めたもので今年度は久慈市が会場となりました。8月7日から訪れた子どもたちの1日目は久慈琥珀を訪れ、琥珀の採掘などを体験。スコップやピックなどを使い約8千5百万年前の地層から琥珀を見つけ出そうと熱心に土を掘り起こし、琥珀のようなものを見つけると、採掘場の担当者を確認していました。2日目は山形町内で自然体験。シャワークライミングで

は、手を取り合い、声を掛け合いながら上流を目指す子どもたちの姿が見られました。参加した今野拓登くん（鎌田小・5年）は「参加するまで久慈は、あまちゃんのロケ地だということ以外知りませんでした。楽しい体験もたくさんできたので、また来たいです」と笑顔。引率した福島市教育委員会文化課の齋藤義弘さんは「体験を通じて、助け合いを学び、結びつきを築いている様子を色々な場面で見ることができました」と子どもたちの成長を実感していました。同事業では7月22日から8月24日までの期間7回に分け、約600人が滞在しました。



天然の滑り台は子どもたちに大人気